

石川町教育委員会の点検・評価報告書
(平成30年度施策・事業)



鈴木家主屋 (鈴木重謙屋敷)

令和元年12月
石川町教育委員会

－目 次－

I	教育委員会の点検・評価制度について	1
II	点検・評価の実施経過及び予定	2
III	学識経験者による意見	2
IV	評価区分	2
V	点検・評価表について	3
VI	点検・評価項目及び点検・評価表	4
VII	石川町教育委員会評価委員会の意見	21
VIII	資料	24
	石川町教育委員会評価委員会設置要綱	
	関係法令	
	石川町教育委員会の点検・評価（平成30年度施策・事業）について	
	「ご意見をお寄せください」	

1 教育委員会の点検・評価制度について

1 概要

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）では、効率的で効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくため、教育委員会が、①毎年、②教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の事務の管理執行の状況について、③教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りつつ、点検・評価を行うこととし、④その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないことが規定されています。

2 目的

効率的で効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、町民への説明責任を果たし、町民に信頼される教育行政を推進することを目的とします。

3 点検・評価の方法

- ① 石川町教育委員会重点施策に掲げた施策体系を基に、教育委員会事務局各係等の懸案事項など、主要な施策・事業（平成30年度は重点施策のうちから16項目）を抽出整理し、点検・評価項目とします。
- ② 各係等において、施策・事業の目標に対し、可能な限りの定量評価を実施し、点検・評価表を整理します。
- ③ 学識経験者から、点検・評価表に係る意見を聴取した上で、教育委員会において点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成します。
- ④ 点検・結果報告書を議会に提出するとともに、町ホームページに掲載し公表します。

4 点検・評価の流れ

点検・評価結果を踏まえ、各事業の取組内容の改善を図りながら、効率的で効果的な教育行政の推進に努めていくこととします。

Plan（立案）：教育行政に関する各種計画の策定

Do（実行）：計画に基づいた業務の遂行

Check（評価）：点検・評価の実施、学識経験者の意見聴取

Action（改善）：議会への報告・町民への公表 → 改善・見直しの検討

II 点検・評価の実施経過及び予定

年 月	会 議 等	内 容
元年9月～10月	作成作業	点検・評価表（自己評価）の作成作業
元年11月	評価委員会	平成30年度点検・評価表に係る意見聴取
元年12月	教育委員会	点検・評価報告書の作成
元年12月	町 議 会	点検・評価報告書の提出
元年12月	公 表	町ホームページへの掲載

III 学識経験者による意見

点検・評価にあたっては、その客観性を確保するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定により、教育に関し学識経験を有する方6名を「石川町教育委員会評価委員会委員」に委嘱し、委員会開催による協議を行うとともに、各委員からいただいた意見書を集約しました。

これらの意見等を踏まえながら、教育委員会事務事業の改善に努めてまいります。

石川町教育委員会評価委員会委員

役 職	氏 名	備 考
委員長	迎 茂 城	石川町社会教育委員長
委 員	郷 美 枝 子	石川町社会教育委員
委 員	深谷 洋一郎	石川町社会教育委員
委 員	菅野 智子	石川町社会教育委員
委 員	鈴木 征博	石川町社会教育委員
委 員	曲山 ちあき	石川町社会教育委員

IV 評価区分

各施策・事業の評価は、目標に対する達成度を基本としつつ、有効性、改善点等を総合的に判断してA(順調)、B(やや順調)、C(努力を要する)の3段階で評価しています。

【評価区分】

- | | |
|---|--------------------------------|
| A 順 調 | : 目標どおり又はそれ以上に達成している(達成度95%以上) |
| B や や 順 調 | : 概ね目標どおり達成している(達成度80%以上) |
| C 努力を要する | : 目標を達成していない(達成度80%未満) |
| ※ 目標値を設定していない場合は、施策等の進捗状況などを総合的に判断して評価しました。 | |

V 点検・評価表について

大項目・中項目	
平成30年度石川町教育委員会重点施策に掲げる体系を基に、該当する施策体系の大項目及び中項目を記載します。	
担当係等	
平成30年度の担当係等を記載します。	
事業名	
平成30年度石川町教育委員会重点施策に掲げる施策体系を基に、教育委員会事務局各係等の主要な事業を抽出したものです。	
事業の目標と見込まれる成果	
点検・評価項目について、設定した目標、その意図などを記載します。 また、当初に計画した数値目標等があれば記載します。	
実施内容	
平成30年度にどのような内容で実施したのかを記載します。	
事業費（財源内訳）	
平成30年度の事業費及び財源内訳を記載します。	
達成状況	
設定した目標に対する達成状況を記載します。	
事業の評価	
事業目標に対する達成状況を踏まえ、事業の有効性、必要性、効率性の観点から評価します。	
評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針	
評価や評価委員会の意見を踏まえ、今後の課題等について記載するとともに、改善に向けた方向性を記載します。	

VI 点検・評価項目及び点検・評価表

No.	点検・評価項目	担当係
1	教育委員会活動	総務係
2	通学援助事業	同
3	学校施設・学習環境整備事業	同
4	石川中学校調理場建設事業	同
5	学力向上推進事業	学校教育係
6	幼保小中間交流学習事業、いしかわふるさと教育事業	同
7	学習環境の整備充実、ICT機器の活用	同
8	英語教育の推進	同
9	学校給食費補助事業	同
10	図書室管理運営事業	公民館
11	放課後児童対策事業（放課後子ども教室）	生涯学習係
12	生涯学習、社会教育、公民館事業	同
13	埋蔵文化財出前体験学習事業	文化振興係
14	スポーツ振興事業	体育振興係
15	社会体育施設の維持・管理	同
16	歴史民俗資料館運営事業	歴史民俗資料館

令和元年度教育委員会点検・評価表(平成30年度事業実施状況)

大項目	その他
中項目	その他

		担当係等	総務係												
事業名	教育委員会活動														
事業の目標と見込まれる成果【Plan】	地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定する教育委員会の所掌事務について、定例会及び臨時の教育委員会を開催・審議し、その結果に基づき適正な執行に努める。 学校や教育施設の訪問、教育懇談会等での意見交換を通し、施設の実態や保護者等の意見の把握に努め、教育行政に反映させる。 総合教育会議では、町長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、教育課題等の共有に努める。														
実施内容【Do】	①教育委員会会議の開催及び教育行政の管理執行 ②学校及び教育機関の訪問・視察 ③各種教育関係研修会への参加 ④総合教育会議への出席														
事業費(財源内訳) ※ 単位:千円	事業費	国庫支出金	県支出金												
	1,211														
		地方債	その他												
			一般財源												
			1,211												
達成状況	①会議の開催状況及び議案等の審議件数 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">会議開催状況</th> <th style="text-align: center;">審議事項</th> <th style="text-align: center;">報告事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">定例会</td> <td style="text-align: center;">12回</td> <td style="text-align: center;">29件</td> <td style="text-align: center;">43件</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">臨時会</td> <td style="text-align: center;">1回</td> <td style="text-align: center;">1件</td> <td style="text-align: center;">0件</td> </tr> </tbody> </table> ②学校及び教育機関の訪問・視察 ・自由民権史跡 鈴木家主屋(4月6日 施設視察) ・野木沢小学校(7月2日) 石川小学校(11月5日) 授業視察、施設視察 ③各種教育関係研修会への参加 ・市町村教育委員会連絡協議会石川支会総会・研修会(7月20日 古殿町) ・東北六縣市町村教育委員会・教育長研修会(7月12・13日 山形県) ・市町村教育委員会連絡協議会教育委員・教育長研修会(8月28日 福島市) ④総合教育会議への出席(3月1日 教育大綱について 等)			会議開催状況		審議事項	報告事項	定例会	12回	29件	43件	臨時会	1回	1件	0件
会議開催状況		審議事項	報告事項												
定例会	12回	29件	43件												
臨時会	1回	1件	0件												
事業の評価【Check】															
区分	評価及び説明・考察														
有効性 (達成度)	目標に対し、期待した成果は得られたか	評価 B	・教育委員会の所掌する事務については、定例会及び臨時会において速やかに審議することができた。 ・学校及び教育機関訪問時に、現場の声を聞く機会の拡充を図る必要がある。												
必要性	事業のニーズに変化はあるか(事業実施後のニーズの変化は)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少	教育委員会は教育行政の重要施策について審議・執行するため、地方公共団体の長から独立した行政機関として組織されているものであり、今後も住民の教育ニーズに応じていく必要がある。												
効率性	事業執行にあたって効率性を高める余地はないか(経費、人員、作業時間等の縮減など)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり	・定例会だけでなく、必要に応じ臨時会を開催し、速やかな議案審議に努めているほか、事務事業については、評価委員会の意見なども踏まえ改善を図っている。 ・教育委員会活動状況を町ホームページに掲載し、住民理解の向上に努めている。												
評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針【Action】	教育委員会活動をより充実させるため、学校をはじめとした教育施設訪問や保護者等との意見交換などを活性化させ、施策に反映させていきたい。														

令和元年度教育委員会点検・評価表(平成30年度事業実施状況)

大項目	(3)学校教育の充実
中項目	⑥ 施設設備・学習環境の整備充実

担当係等	総務係
------	-----

事業名	通学援助事業					
事業の目標と見込まれる成果【Plan】	通学専用バスの運行や路線バスの活用により、登下校に係る児童生徒の安全確保並びに保護者負担の軽減を図る。					
実施内容【Do】	通学距離が石川小学校3km以上、石川中学校4km以上の児童生徒の登下校に対し、通学バスの運行及び路線バスの活用を図った。					
事業費(財源内訳) ※単位:千円	事業費	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
	98,632	22,201				76,431
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・通学専用バス(7路線 330人) 93,114千円 母畑方面、中田・母畑方面、南山形方面、山形方面、赤羽方面、沢田方面、野木沢方面 ・路線バス(4路線 123人) 5,414千円 鳥内橋線、竜崎線、仁田・竹貫田線、名花線 					

令和元年10月 バス運行予定一覧

【基本】1便目15:10 2便目16:40 3便目18:00 ※週3日の割合で1便目に14:20が入り、計4便で運行

号車	登 校								下 校			
	専用バス				路線バス				専用バス			路線バス
	1	2~4	5~6	7	鳥内橋	竜崎	中谷	名花	1~4	5~6	7(中学生)	中谷
	7:15	7:10	7:10	7:15	7:19	7:33	7:29 7:39	7:29	1 便	15:10	15:10	15:29
									2 便	16:40	16:40	16:39
									3 便	18:00	18:00	17:54
									4 便			

記載の時刻は、登下校時の出発時刻。

事業の評価【Check】

区分		評価及び説明・考察			
有効性 (達成度)	目標に対し、期待した成果は得られたか	評価	・石川小・中学校及びバス事業者と連携を図り、基本的な運行のほかに学校行事等に合わせた運行を行うなど、児童生徒の安全な通学手段の確保に努めた。 ・通学バス検討委員会等を通じた、運行ルート等のニーズ把握に努める必要がある。		
		B			
必要性	事業のニーズに変化はあるか(事業実施後のニーズの変化は)	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	
		児童生徒の安全な通学手段を確保することや、通学に係る保護者負担の軽減を図ることは必要である。			
効率性	事業執行にあたって効率性を高める余地はないか(経費、人員、作業時間等の縮減など)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし	<input type="checkbox"/> 余地あり		
		・国庫補助金を確保し、町負担の軽減を図っている。 ・小・中学校と連携を密にし、学校行事等に伴う便数の増減に適宜対応している。			
評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針【Action】		児童生徒の登下校の安全を確保していくことはもちろんのこと、児童生徒の所在等に的確に対応し、運行体制やコース等の見直しを行いながら、事業費の抑制を図っていくことも必要である。			

令和元年度教育委員会点検・評価表(平成30年度事業実施状況)

大項目	(3)学校教育の充実
中項目	⑥ 施設設備・学習環境の整備充実

		担当係等	総務係																																				
事業名	学校施設・学習環境整備事業																																						
事業の目標と見込まれる成果【Plan】	児童生徒が安全な学校生活を送るための施設整備に努めるとともに、計画的な改修を進めながら施設の長寿命化を図る。																																						
実施内容【Do】	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽施設、設備等の修繕 ・近年の気温上昇対策としてのエアコン設置工事に係る実施設計業務 ・老朽備品の更新 等 																																						
事業費(財源内訳) ※ 単位:千円	事業費	国庫支出金	県支出金																																				
	65,007		111																																				
			64,896																																				
達成状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">小学校3施設の主な施設整備・事業費</td> <td style="text-align: right;">単位:千円</td> </tr> <tr> <td style="width: 80%;">石川小学浄化槽フロア修繕ほか</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="text-align: right;">1,137</td> </tr> <tr> <td>野木沢小エアコン清掃業務ほか</td> <td></td> <td style="text-align: right;">4,362</td> </tr> <tr> <td>沢田小等エアコン設置工事設計業務ほか</td> <td></td> <td style="text-align: right;">3,038</td> </tr> <tr> <td>石川小側溝堆砂除去ほか</td> <td></td> <td style="text-align: right;">1,320</td> </tr> <tr> <td>石川小遊具広場整備、沢田小遊具補修、野木沢小プール槽改修ほか</td> <td></td> <td style="text-align: right;">17,698</td> </tr> <tr> <td>石川小椅子、沢田小ワイヤレスマイクセットほか</td> <td></td> <td style="text-align: right;">1,642</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">中学校1施設の主な施設整備・事業費</td> <td style="text-align: right;">単位:千円</td> </tr> <tr> <td>石川中浄化槽フロア修繕ほか</td> <td></td> <td style="text-align: right;">613</td> </tr> <tr> <td>石川中エアコン設置工事設計業務ほか</td> <td></td> <td style="text-align: right;">2,954</td> </tr> <tr> <td>石川中側溝敷設替、用具置場等解体ほか</td> <td></td> <td style="text-align: right;">5,823</td> </tr> <tr> <td>石川中折りたたみ椅子ほか</td> <td></td> <td style="text-align: right;">1,642</td> </tr> </table>			小学校3施設の主な施設整備・事業費		単位:千円	石川小学浄化槽フロア修繕ほか		1,137	野木沢小エアコン清掃業務ほか		4,362	沢田小等エアコン設置工事設計業務ほか		3,038	石川小側溝堆砂除去ほか		1,320	石川小遊具広場整備、沢田小遊具補修、野木沢小プール槽改修ほか		17,698	石川小椅子、沢田小ワイヤレスマイクセットほか		1,642	中学校1施設の主な施設整備・事業費		単位:千円	石川中浄化槽フロア修繕ほか		613	石川中エアコン設置工事設計業務ほか		2,954	石川中側溝敷設替、用具置場等解体ほか		5,823	石川中折りたたみ椅子ほか		1,642
小学校3施設の主な施設整備・事業費		単位:千円																																					
石川小学浄化槽フロア修繕ほか		1,137																																					
野木沢小エアコン清掃業務ほか		4,362																																					
沢田小等エアコン設置工事設計業務ほか		3,038																																					
石川小側溝堆砂除去ほか		1,320																																					
石川小遊具広場整備、沢田小遊具補修、野木沢小プール槽改修ほか		17,698																																					
石川小椅子、沢田小ワイヤレスマイクセットほか		1,642																																					
中学校1施設の主な施設整備・事業費		単位:千円																																					
石川中浄化槽フロア修繕ほか		613																																					
石川中エアコン設置工事設計業務ほか		2,954																																					
石川中側溝敷設替、用具置場等解体ほか		5,823																																					
石川中折りたたみ椅子ほか		1,642																																					
事業の評価【Check】																																							
区分	評価及び説明・考察																																						
有効性 (達成度)	目標に対し、期待した成果は得られたか	評価 A	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が著しく進んでいた野木沢小学校プール槽の改修により、快適な学習環境を整えることができた。 ・石川小学校側溝の堆砂除去を行い、降雨後のグラウンド状況の改善を図ることができた。 																																				
必要性	事業のニーズに変化はあるか(事業実施後のニーズの変化は)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は災害時の避難場所としても重要な役割を果たすものであり、近年の気象変化に伴う災害の増加傾向を考慮すると、避難施設としての計画的な施設整備が必要である。 ・教育内容・方法等の変化に伴う、多様な学習環境に適應できる施設整備が必要である。 																																				
効率性	事業執行にあたって効率性を高める余地はないか(経費、人員、作業時間等の縮減など)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり	限られた予算の中、緊急性、必要性等を考慮しながら施設整備に努めている。																																				
評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針【Action】	児童生徒が安全な学校生活を送ることができる施設を維持・管理するために、学校現場や教育委員会による定期的な点検を行うほか、防災拠点としての機能の充実や多様な学習環境に對應できる施設の計画的な整備が必要である。																																						

令和元年度教育委員会点検・評価表(平成30年度事業実施状況)

大項目	(3)学校教育の充実
中項目	⑥ 施設設備・学習環境の整備充実

		担当係等	総務係																		
事業名	石川中学校調理場建設事業																				
事業の目標と見込まれる成果【Plan】	学校給食衛生管理基準(ドライシステム、施設内諸室の明確な区分化等)に適合した調理場を建設し、より安全でおいしい学校給食を提供する。 令和元年度2学期からの供用開始を目指す。																				
実施内容【Do】	石川中学校校舎東側敷地に調理場を建設する。 ・旧技術室棟の既設杭撤去等工事 ・地盤改良工事 ・水道管移設工事 ・調理場建設工事(平成30年度・令和元年度の2ヶ年事業) ・厨房機器購入(")																				
事業費(財源内訳) ※ 単位:千円	事業費	国庫支出金	県支出金																		
	149,323	10,198	137,000																		
			地方債																		
			137,000																		
			その他																		
			2,125																		
			一般財源																		
達成状況	<p style="text-align: right;">単位:千円</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">石川中学校調理場建設に係る主な工事・工事費等</td> </tr> <tr> <td style="width: 80%;">既設杭撤去等工事</td> <td style="text-align: right;">10,107</td> </tr> <tr> <td colspan="2">旧技術室棟の地下埋設杭を撤去。</td> </tr> <tr> <td>地盤改良工事</td> <td style="text-align: right;">20,070</td> </tr> <tr> <td colspan="2">深層混合処理工法により地盤を固化し、調理場建設に必要な支持力を確保。</td> </tr> <tr> <td>調理場建設工事</td> <td style="text-align: right;">118,780</td> </tr> <tr> <td colspan="2">RC造平屋建て 延床面積316.9㎡</td> </tr> <tr> <td>厨房機器購入</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">回転釜、洗浄機、パススルー冷蔵庫、揚物機等の購入。</td> </tr> </table> <p>※調理場建設工事業費は前金払分。厨房機器購入は、平成30年度は支出なし。</p>			石川中学校調理場建設に係る主な工事・工事費等		既設杭撤去等工事	10,107	旧技術室棟の地下埋設杭を撤去。		地盤改良工事	20,070	深層混合処理工法により地盤を固化し、調理場建設に必要な支持力を確保。		調理場建設工事	118,780	RC造平屋建て 延床面積316.9㎡		厨房機器購入	-	回転釜、洗浄機、パススルー冷蔵庫、揚物機等の購入。	
石川中学校調理場建設に係る主な工事・工事費等																					
既設杭撤去等工事	10,107																				
旧技術室棟の地下埋設杭を撤去。																					
地盤改良工事	20,070																				
深層混合処理工法により地盤を固化し、調理場建設に必要な支持力を確保。																					
調理場建設工事	118,780																				
RC造平屋建て 延床面積316.9㎡																					
厨房機器購入	-																				
回転釜、洗浄機、パススルー冷蔵庫、揚物機等の購入。																					
事業の評価【Check】																					
区分	評価及び説明・考察																				
有効性 (達成度)	目標に対し、期待した成果は得られたか	評価 B	・調理場本体の建設に入る前段階としての、既設杭撤去等工事、地盤改良工事工程に若干の遅れが生じた。																		
必要性	事業のニーズに変化はあるか(事業実施後のニーズの変化は)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少	学校給食衛生管理基準に適合した調理場の整備は、より安全な学校給食を提供するうえで必要である。																		
効率性	事業執行にあたって効率性を高める余地はないか(経費、人員、作業時間等の縮減など)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり	国庫補助金の確保や、償還の際に交付税措置がある地方債の借入れを行うなど、町負担の軽減を図っている。																		
評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針【Action】	既設杭撤去等工事及び地盤改良工事に若干の遅れが出たが、調理場の令和元年度2学期からの供用開始に向け、今後の工程管理をしていきたい。																				

令和元年度教育委員会点検・評価表(平成30年度事業実施状況)

大項目	(3)学校教育の充実
中項目	③ 確かな学力の育成と教師の指導力の向上 ④ 地域に開かれた特色ある学校教育の推進

		担当係等	学校教育係			
事業名	学力向上推進事業					
事業の目標と見込まれる成果【Plan】	教師の指導力の向上と石川町の児童生徒の学力の向上を目的に、学力向上に関わる各事業の充実に向けた会議及び研修会の開催・事業成果の分析等を通して、教員の指導力向上及び児童生徒の学力向上を図る。また、学力調査等の結果分析を通して、本町の児童生徒の学力や学習状況の明確化及び指導改善の方策について焦点化・共有化を図る。					
実施内容【Do】	1 学力向上推進会議(校長対象:年2回)・学力向上推進部会(研修主任等対象:年4回) 2 石川町教育ゼミナール(2日間) 3 小中連携授業研究会(各2校:年3回) 4 石川小学校・石川中学校研究公開(2日間) 5 石川町「学習の手引き」「家庭学習の手引き」「『いしかわのじかん』宣言」配付・周知 6 標準学力調査(東京書籍)の実施・分析					
事業費(財源内訳) ※単位:千円	事業費	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
	806					806
達成状況	1 推進会議・推進部会を通して、町の学力向上の方針と各学校の現職教育の連携を図った。 2 夏季休業中に「石川町教育ゼミナール」(教員研修会)を2日間実施し、町内外から延べ94名の教員が参加して授業力の向上を目指して研修を積んだ。 3 小中学校の連携授業研究会を6回、石川小学校・石川中学校の研究公開を実施し、学習内容の系統的な研究と学習スタイルの統一を図った。また、各学校での授業研修会は、一人1授業を基本に開催され、それぞれの事後研究会で「学び合い」の成果と課題について協議した。 4 新入学児童全員に「学習の手引き」「家庭学習の手引き」を配付し、学校・家庭での学習スタイルについて周知するとともに、「いしかわのじかん」を通して、学校とPTAが協力して児童生徒の家庭学習や読書時間の増加を図った。 5 「全国学力・学習状況調査」「県学力調査」だけでなく、本町独自に「標準学力調査」を実施することで、児童生徒の学力の実態把握・指導法の改善を進めた。					
事業の評価【Check】						
区分		評価及び説明・考察				
有効性 (達成度)	目標に対し、期待した成果は得られたか	評価	・会議・部会を通して、町内小中学校教員が集まり研修する場を充実させることで、「学び合い」授業の考え方を基本とした授業実践を行い、教員の指導力の向上を図ることができた。 ・今後さらに児童生徒の学力の実態分析を進め、教員の指導力向上を図り、より学力を高めていく必要がある。			
		B				
必要性	事業のニーズに変化はあるか(事業実施後のニーズの変化は)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少	児童生徒の学力向上のための教師の指導力向上は、学校教育における最重要課題の一つである。そのための会議・部会の充実、教育ゼミナールの実施、年間を通じた授業研究会の継続的実施、学力テスト等の実施は、今後益々必要不可欠なものになると考える。			
		<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり				
効率性	事業執行にあたって効率性を高める余地はないか(経費、人員、作業時間等の縮減など)	教育ゼミナールについては、働き方改革の視点からも、開催日数・開催時期等について検討する必要がある。				
評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針【Action】		・今後、各校の実践をもとに情報交換ができる機会を設けていきたい。 ・新学習指導要領に向けた教育課程編成の方向性を検討していきたい。 ・児童生徒の「学びの習慣」の確立のため、家庭学習との連携を図った実践を継続的に進めるため、各校の取り組みを情報交換しながら工夫していきたい。				

令和元年度教育委員会点検・評価表(平成30年度事業実施状況)

大項目	(3)学校教育の充実
中項目	① 豊かな人間性の育成 ③ 確かな学力の育成と教師の指導力の向上

		担当係等	学校教育係			
事業名	幼保小中間交流学習事業、いしかわふるさと教育事業					
事業の目標と見込まれる成果【Plan】	児童生徒の人間関係づくりを行うことにより、人間関係による不安や幼保小間、小中間の進級に関する不安の解消を目的に、学校の枠を超えて人間関係づくり等の交流活動を通して、児童生徒に所属感・連帯感を味わわせ自己存在感を高める。また、特別支援教育協議会を通して、幼保小中間の進級に関する不安の解消及び適正な就学指導を図るとともに、学力向上推進事業との関連を通して、児童生徒の学力向上を推進する。					
実施内容【Do】	1 6年生合同交流会(フライデーコネクション)(年5回) 2 特別支援学級交流会(年2回) 3 「いしかわふるさと教育」(タブレットの活用)の推進 4 特別支援教育協議会(年2回)					
事業費(財源内訳) ※ 単位:千円	事業費	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
	350					350
達成状況	1 フライデーコネクションを通して、英国文化体験教室の充実を図ったり、中学校の教師による体育・数学等の学習を体験することで、中学校へ向けての期待を高めたりすることができた。また、保護者への説明会は、中学校生活について家庭と共通理解を図る場として有効だった。 2 特別支援学級交流会を通して、学校の枠を超えて児童同士が物作り等楽しく学習する充実した時間となった。また、教師も互いの指導について理解を深める場となった。 3 地域教材を通して地域を理解し、地域に貢献できる人材の育成を図った。また、小学校社会科補助教材「わたしたちの石川町」(タブレット)の活用について演習を行い、各校の積極的な活用を推進した。 4 幼児の保育・教育から義務教育にかけての特別支援教育の内容や就学について、関係機関の連携を図り、適正な就学を推進した。					
事業の評価【Check】						
区分		評価及び説明・考察				
有効性 (達成度)	目標に対し、期待した成果は得られたか	評価	・フライデーコネクション・特別支援学級交流会等により、学校の枠を超えて児童生徒の交流が深まり、互いを大切にしながら交流できるようになってきている。 ・「わたしたちの石川町」(タブレット)の活用が積極的に行われた。今後さらに多くの学年で活用できるよう、内容について検討を図る必要がある。 ・特別支援教育協議会により、町内各学校・各保育所・児童館・こども園に在籍している、個別の支援が必要な児童生徒に関する情報を共有することができ、さらに、石川支援学校の助言をいただくことで、就学や進学に向けて連携した支援ができるようになってきた。			
		B				
必要性	事業のニーズに変化はあるか(事業実施後のニーズの変化は)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少	学校の枠を超えた人間関係づくりは、幼保小中間の進級に関する不安を解消する上で重要であると考えます。			
効率性	事業執行にあたって効率性を高める余地はないか(経費、人員、作業時間等の縮減など)	<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり	「わたしたちの石川町」については、活用の必要性及び活用頻度を踏まえて経費を検討することができるのではないかと考えます。			
評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針【Action】		・児童生徒の自己存在感を高め、安心できる学校生活・家庭生活を送ることができるよう、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・関係機関等との連携を図りながら、教育相談体制・ケース会議の充実をさらに図る必要がある。 ・フライデーコネクションの内容について、目的を明確にして内容の検討を図る必要がある。				

令和元年度教育委員会点検・評価表(平成30年度事業実施状況)

大項目	(3)学校教育の充実
中項目	③確かな学力の育成と教師の指導力の向上 ⑤情報化教育と国際理解教育の推進 ⑥施設設備・学習環境の整備充実

		担当係等	学校教育係			
事業名	学習環境の整備充実、ICT機器の活用					
事業の目標と見込まれる成果【Plan】	小中学校の学習におけるICT環境を整備し、より学習効果を上げ、情報化教育を推進する。 また、ICT機器を積極的に活用していくことで、子供たちの情報活用能力を身に付けさせ高度情報化社会を主体的に生きていく力を育成する。					
実施内容【Do】	1 文部科学省で示されている教育のICT環境の整備方針の中で目標とされている学校のICT環境モデルの水準をベースに、学校に必要なICT環境を整備していく。 2 ICT機器のメリットを生かし、学習活動の充実のために積極的な活用を図る。					
事業費(財源内訳) ※ 単位:千円	事業費	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
	8,506					8,506
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校全体でタブレット端末計120台と周辺機器を追加で借り上げし既存の端末とあわせて計240台整備し、2クラスが同時に授業で活用できるようにした。 ・石川中学校と野木沢小学校の教員用パソコン及び児童生徒用パソコンの更新を行い、現況に即した新しい環境で学習できる環境整備を行った。石川中学校(教員全員分33台及び生徒用40台)、野木沢小学校(教員全員分15台及び児童用26台) ・石川小学校と沢田小学校については平成29年度に更新済み 平成30年度パソコン等賃借料6,216,864円 ・全小中学校で使用しているシステム専用パソコン等も含め更新を行い、Windows7の2020年1月サポート終了に対応した。 ・日常的な授業でのコンピュータやタブレットの活用を進めた。 ・ICT機器の取扱いに関する研修を各学校毎に進めた。 					
事業の評価【Check】						
区分		評価及び説明・考察				
有効性 (達成度)	目標に対し、期待した成果は得られたか	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・全小中学校でタブレット端末を計120台追加整備し、授業等で複数クラスが同時間に使用できる環境を整備できた。 ・パソコン更新を実施し安全な環境で安心してパソコンを活用することができる環境を整備できた。 ・学習内容に応じて、タブレットやデジタル教科書を活用する授業が多くなってきた。 			
		B				
必要性	事業のニーズに変化はあるか(事業実施後のニーズの変化は)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少	新学習指導要領において「各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること」と明記されており、子どもたちが積極的にICT機器を活用し情報活用能力を身につけられる環境整備が必要である。 また、「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置付けられており、積極的にICTを活用することが求められている。			
		<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり				
効率性	事業執行にあたって効率性を高める余地はないか(経費、人員、作業時間等の縮減など)	ICT環境整備にあたり、国や県からの直接的な補助が無い中で、文部科学省で示しているICT環境は非常にハードルが高い状況である。整備すれば維持していくことが必要であり、維持するには費用が発生するため学校での必要感など確認しながら過不足ない形で整備を進めていく必要がある。 ICT機器の活用については、先生により活用状況が異なるところがあるため、広く積極的に活用していただくために、使いやすい環境整備や研修等を実施していく必要がある。				
評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針【Action】		<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度より 統合型校務支援システムを導入予定しているため、導入に必要な環境整備や教員の研修等を計画的に実施していく必要がある。 ・授業におけるパソコンやタブレット端末の活用を促進できるように研修の場を設けていく。 				

令和元年度教育委員会点検・評価表(平成30年度事業実施状況)

大項目	(3)学校教育の充実
中項目	⑤ 情報化教育と国際理解教育の推進

		担当係等	学校教育係			
事業名	英語教育の推進					
事業の目標と見込まれる成果【Plan】	小学校から中学校の9年間を見通した英語教育を推進し、児童の国際感覚を養うと共に中学生の英語の語学力を向上させる。					
実施内容【Do】	小学校、中学校を中心に英語指導助手を配置し、多様な教育活動を展開することで、国際社会の理解を深め、コミュニケーション能力の育成を図る。また、小学校における「英語教育」の充実のために、小学校教員による英語指導の研修機会の確保に努め、英語指導力の向上を図る。					
事業費(財源内訳) ※ 単位:千円	事業費	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
	12,397				432	11,965
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・英語指導助手の効果的な活用を図った。 英語指導助手派遣日数 小:169日 中:129日(含:保育所等19日) ・年間4回の国際理解推進会議では、小中学校教員が合同での授業研究会を実施したり、新指導要領の実施に向けた研修を行った。 ・国際理解教育(小学校1～4年)の年間指導計画の作成を行い、平成25年度より各学年12時間の国際理解教育を実施している。 ・小学校6年生全員により一泊二日の「英国文化体験教室」をブリティッシュ・ヒルズで実施した。 					
事業の評価【Check】						
区分		評価及び説明・考察				
有効性 (達成度)	目標に対し、期待した成果は得られたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育年間指導計画を作成し、小学校の英語の学習内容の共通化が図られた。 ・英語指導助手の手作り教材や個別の授業プログラムにより、多くの児童生徒が英語に対する興味・関心を高め、興味深く活動する姿が多く見られた。 ・「英国文化体験教室」で英会話や英語を通じたゲーム、エチケット・マナーを学習することにより、外国語に対する理解を深め、同時に他校との交流を通して、児童の社会性や個性の伸長を図ることができた。 			
必要性	事業のニーズに変化はあるか(事業実施後のニーズの変化は)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少		
		世界に通じる人づくりを進めるため、英語教育による児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上は必要不可欠である。				
効率性	事業執行にあたって効率性を高める余地はないか(経費、人員、作業時間等の縮減など)	<input type="checkbox"/> 余地なし	<input checked="" type="checkbox"/> 余地あり			
		夏休み等、長期で学校が休みとなる期間における英語指導助手の有効な活用方法の検討				
評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針【Action】	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の実施に向け各学校の英語・外国語学習の教育課程を編成していく必要がある。 ・小中学校ともイングリッシュルームの設定やオールイングリッシュの授業の実施をさらに検討する必要がある。 					

令和元年度教育委員会点検・評価表(平成30年度事業実施状況)

大項目	(3)学校教育の充実
中項目	⑥ 施設設備・学習環境の整備充実

		担当係等	学校教育係			
事業名	学校給食費補助事業					
事業の目標と見込まれる成果【Plan】	児童生徒の学校給食費の半額を補助し、子育て世代の保護者の経済的負担軽減を図る。					
実施内容【Do】	町の単独事業として、9月までの学校給食費等に未納が無く、町税等に滞納のない町内在住の町立小中学校児童生徒保護者に対して、給食費個人負担額の1/2分として10月からの半年分を補助する。					
事業費(財源内訳) ※ 単位:千円	事業費	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
	25,975					25,975
達成状況	・学校給食費補助事業により、給食費個人負担額の1/2の額として小学校656名分16,787,558円、中学校330人分9,186,792円 計25,974,350円の補助を行った。					
事業の評価【Check】						
区分		評価及び説明・考察				
有効性 (達成度)	目標に対し、期待した成果は得られたか	評価 A	・学校給食費を補助し保護者負担の軽減を図れた。			
必要性	事業のニーズに変化はあるか(事業実施後のニーズの変化は)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少	子育て支援施策の一環として、学校給食費補助による保護者の経済的負担軽減を図ることは必要である。			
効率性	事業執行にあたって効率性を高める余地はないか(経費、人員、作業時間等の縮減など)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり	学校給食費、町税等に係る未納の有無を確認したうえで補助を行っている。			
評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針【Action】		継続して学校給食費を補助し保護者負担軽減を図る。				

令和元年度教育委員会点検・評価表(平成30年度事業実施状況)

大項目	(4)文化の振興と文化遺産・鉱物の保存・活用
中項目	④ 図書利用環境の充実

		担当係等	公民館			
事業名	図書室管理運営事業					
事業の目標と見込まれる成果【Plan】	家庭での読書習慣のきっかけづくりのため、住民のニーズに応じた図書整備の充実に図るとともに、図書館事業をととして、子どもの豊かな心を育み、生涯にわたり生きる力を養うことを目標とする。					
実施内容【Do】	(1)図書の充実及び図書利用の推進・・・新刊図書の購入、県立図書館の活用等 (2)子ども図書事業の推進・・・「みんなおいでヨたのしい絵本」の定期開催 (3)広報による図書等の紹介・・・図書館だよりの充実、町ホームページでの図書情報の提供					
事業費(財源内訳) ※単位:千円	事業費	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
	9,428				2,000	7,428
達成状況	①図書の充実 ・図書購入 2,262冊(内訳 一般図書 1,422冊 児童図書 840冊) ・寄贈図書 650冊(内訳 一般図書 628冊 児童図書 22冊) ・リサイクルコーナーの利活用 ・移動図書(巡回図書)の活用 県立図書館「あづま号」年2回(1回につき約500冊借用) ②図書室利用 大人 4,030人、子ども 2,300人 合計 6,330人 ③貸出冊数 8,672冊(うち児童書 4,711冊) ④子ども図書事業「みんなおいでヨたのしい絵本」月1回 年12回開催(参加者数 90人) ⑤広報いしかわにより、図書だよりの発行や新刊図書のお知らせ等、情報発信を行った。					
事業の評価【Check】						
区分		評価及び説明・考察				
有効性 (達成度)	目標に対し、期待した成果は得られたか	評価	限られた条件下ではあるが、図書室の利用者は年々増加傾向である。 (図書室利用者 H30. 6,330人、H29. 6,700人、H28. 4,946人)			
		B				
必要性	事業のニーズに変化はあるか(事業実施後のニーズの変化は)	■ 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少		
		長年にわたり、町民から公立図書館の設置が望まれており、平成31年度からは、文教福祉複合施設内(旧石川小校舎)に開館予定である。				
効率性	事業執行にあたって効率性を高める余地はないか(経費、人員、作業時間等の縮減など)	■ 余地なし	<input type="checkbox"/> 余地あり			
		短時間の嘱託職員が事務従事しているなど、最小限の経費で運営しており、効率化は難しい。				
評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針【Action】		来年度から、公民館図書室から町立図書館にグレードアップするので、利用者サービスの向上(蔵書数の増、学習スペース設置等)を図る必要がある。				

令和元年度教育委員会点検・評価表(平成30年度事業実施状況)

大項目	(2) 青少年の健全育成
中項目	② 青少年活動の推進

		担当係等	生涯学習係			
事業名	放課後児童対策事業(放課後子ども教室)					
事業の目標と見込まれる成果【Plan】	地域の人の協力を得て、安全・安心な居場所と豊かな体験活動機会を提供し、青少年の健やかな環境づくりを推進することを目的とする。 心豊かで健やかな子どもたちが地域の大人たちとのかかわりの中育っていく。					
実施内容【Do】	沢田小と野木沢小の1年生から3年生を対象に、週2回程度放課後に読み聞かせ、軽スポーツ、料理教室、お茶会、マジックショーなど多彩なメニューで体験活動を提供した。					
事業費(財源内訳) ※ 単位:千円	事業費	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
	2,091		1,263			828
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・沢田子ども教室 水・木曜日 14時45分～15時35分 37名 全54回実施 ・野木沢子ども教室 火・水曜日 15時10分～16時10分 51名 全47回実施 子ども教室関係者による打合せ会議 3回開催 平成30年度、石川町の放課後子ども教室が『地域学校共同活動』推進に係る文部科学大臣表彰を受賞。					
事業の評価【Check】						
区分		評価及び説明・考察				
有効性 (達成度)	目標に対し、期待した成果は得られたか	評価 A	・放課後の子どもたちに、安全・安心な居場所を提供するとともに、ペットボトルロケットや野菜作りなど、様々な体験の場を提供することができた。 ・異学年の子ども同士や地域の方々など、幅広い年齢層との多様な交流機会を設けることができた。			
必要性	事業のニーズに変化はあるか(事業実施後のニーズの変化は)	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少		
		沢田小、野木沢小の1～3年生は、ほぼ全員登録している。				
効率性	事業執行にあたって効率性を高める余地はないか(経費、人員、作業時間等の縮減など)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし	<input type="checkbox"/> 余地あり			
		地域の方々に活動指導員として、交通費程度の謝金で活動していただいている。経費は、最低限なので縮減する余地はないと思われる。 長寿会の方が時間のあるときに畑の手入れや草刈をしている。子ども教室時間だけでまかなえない分をボランティア対応し、子どもたちの活動をサポートしてくれている。				
評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針【Action】		活動指導員などの新たなボランティア人材の確保。				

令和元年度教育委員会点検・評価表(平成30年度事業実施状況)

大項目	(1)生涯学習の充実
中項目	②生涯学習機会の充実 ③社会教育の充実

		担当係等	生涯学習係			
事業名	生涯学習、社会教育、公民館事業					
事業の目標と見込まれる成果【Plan】	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治センター等で行っている生涯学習活動を支援し、地域の教育力の向上に努める。 ・現代的な課題、青少年や一般成人など世代に応じた各種教室・講座等を開設する。参加者が集り、自主運営サークルとしての活動へと移ることが狙い。 					
実施内容【Do】	地域の実情に即し、各自治センターで取り組んでいる各種教室(生涯学習講座)への講師派遣や助言、または資料の提供など。 青少年を対象とした「ぼくもわたしもチャレンジャー」、成人を対象とした「生き生きライフ講座」を開設し、それぞれに応じた多様なメニューを採り入れて実施。					
事業費(財源内訳) ※単位:千円	事業費	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
	178					178
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の内容に応じた講師の選定及び派遣等への助言、生涯学習に関連する資料提供など ・ぼくもわたしもチャレンジャー 実施回数8回 延べ132名 勾玉づくり、角田市との交流(鉱物採取、はやぶさ祭り)、サイエンス教室、蓬田岳登山、縄文人になろう、ペットボトルロケット飛ばし、ピザ作り教室 など ・生き生きライフ講座 実施回数4回 延べ53名 美術鑑賞、料理教室、アロマワックスサッシュ作り、カフェトーク(電力について学ぶ)等 ・成人向け講座【昼7回開催】太極拳教室 					
事業の評価【Check】						
区分		評価及び説明・考察				
有効性 (達成度)	目標に対し、期待した成果は得られたか	評価	・公民館事業で行った『太極拳講座』は、受講希望者が多く、自主サークルとしての活動希望もあったが、別会場で行っている2団体に参加する形となった。 ・『ぼくもわたしもチャレンジャー』様々な活動により、(全7回中/2回)角田市との姉妹都市交流ができた。			
		B				
必要性	事業のニーズに変化はあるか(事業実施後のニーズの変化は)	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	自主サークル等の利用は、例年変わらず。定期的な利用者が多くいる。	
効率性	事業執行にあたって効率性を高める余地はないか(経費、人員、作業時間等の縮減など)	<input type="checkbox"/> 余地なし	<input checked="" type="checkbox"/> 余地あり	講師選定等で経費を抑えることができる。 生き生きライフ講座では、受講者の意見を取り入れる等、多様なメニューを展開することができた。		
評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針【Action】		性別や年代ごとのニーズにあわせた事業は、多種多様である。 新しい事業を取り入れる際も同じ参加者が多く、新しい方の呼び込みが難しい。				

令和元年度教育委員会点検・評価表(平成30年度事業実施状況)

大項目	(4)文化の振興と文化遺産・鉱物の保存・活用
中項目	文化財の保護・活用と愛護思想の高揚

		担当係等	文化振興係			
事業名	埋蔵文化財出前体験学習事業					
事業の目標と見込まれる成果【Plan】	歴史の学習や故郷の歴史を理解するため、埋蔵文化財出前体験学習事業を小中学校や一般成人を対象に行い、郷土教育や文化財保護の啓蒙を図る。					
実施内容【Do】	小中学校については3コース(①出前授業、②連携(職員・先生)、③史跡・文化財見学解説支援)、一般成人向けについては2コース(①自治センター等にて出前講座等の支援、②史跡・文化財見学解説支援)を開設。					
事業費(財源内訳) ※ 単位:千円	事業費	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
	0					
達成状況	①小中学校向け事業(要請回数:5回 のべ人数:176人) ・第1回: 4月25日 沢田小6年生 19人 内容:町内文化財巡り ・第2回: 6月13日 沢田小4年生 17人 内容:町内文化財巡り ・第3回: 9月11日 沢田小6年生 19人 内容:町内文化財巡り ・第4回: 11月27日 玉川一小6年生 35人 内容:町内文化財巡り ・第5回: 11月28日 石川小6年生 86人 内容:町内文化財巡り ②一般成人向け事業(要請回数:2回) ・6月12日:石川警察署において「石川町の文化財について」の講話 ・11月1日:雨岳文庫を活用する会(神奈川県伊勢原市)の自由民権運動史跡等の見学支援					
事業の評価【Check】						
区分		評価及び説明・考察				
有効性 (達成度)	目標に対し、期待した成果は得られたか	評価 B	・小中学校向け事業においては、町域の文化財を案内することで、歴史学習やふるさと教育の一助となった。 ・一般成人向け事業においては、石川町外の方々に、本町の歴史文化資源を知っていただく機会を設けることができた。			
必要性	事業のニーズに変化はあるか(事業実施後のニーズの変化は)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少	・小中学校向け事業では、これまでなかった町外の小学校からの要請があった。 ・一般成人向け事業では、鈴木重謙屋敷が開設されたことにより、今後ニーズが増えることが予想される。			
効率性	事業執行にあたって効率性を高める余地はないか(経費、人員、作業時間等の縮減など)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり	小中学生向け事業において、事業実施前に担当教員と打合せを行い、どのような点を重点に説明すべきか等の確認を行った上で、事業に取り組んでいる。また、学校の急な要請に対しても対応できるよう努めている。			
評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針【Action】		中学校からの要請がなかったため、授業の一助として先生方との連携を深めていくなどの改善が必要である。				

令和元年度教育委員会点検・評価表(平成30年度事業実施状況)

大項目	(1)生涯学習の充実
中項目	④ 生涯スポーツの振興

		担当係等	体育振興係
事業名	スポーツ振興事業		
事業の目標と見込まれる成果【Plan】	健康でいきいきと生活できるよう、町民がスポーツに親しめる環境づくりに努め、生涯スポーツの振興を図る。		
実施内容【Do】	①スポーツ推進委員の研修会の実施 ②学校体育施設開放の実施 ③第10回石川さくらロードレース大会の開催 ④第12回市町村対抗福島県軟式野球大会の参加 ⑤第5回市町村対抗福島県ソフトボール大会の参加 ⑥石川町スポーツ振興講演会事業の実施		
事業費(財源内訳) ※ 単位:千円	事業費	国庫支出金	県支出金
	2,335		2,335
達成状況	①スポーツ推進委員の研修会の実施(救急救命講習・ニュースポーツ研修会) ②学校体育施設開放の実施 年間利用者数12,923人 ③第10回石川さくらロードレース大会の開催 平成30年4月7日(土) 会場-今出川周辺 小1から一般成人573人が参加 ④第12回市町村対抗福島県軟式野球大会への参加 平成30年9月8日(土)～ 会場-県内各野球場 3回戦進出 ⑤第5回市町村対抗福島県ソフトボール大会への参加 平成30年10月13日(土)～ 会場-相馬市 3回戦進出 ⑥石川町スポーツ振興講演会の開催		
事業の評価【Check】			
区分		評価及び説明・考察	
有効性 (達成度)	目標に対し、期待した成果は得られたか	評価 B	・さくらロードレース大会で、町民にスポーツに親しむ機会を提供した。 ・学校体育施設の開放など町民にスポーツができる場を提供している。 ・市町村対抗の各種大会への参加や講演会の開催により、町民のスポーツへの関心を高めることができた。
必要性	事業のニーズに変化はあるか(事業実施後のニーズの変化は)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少	町民ニーズを把握しながら、スポーツ人口の拡大に努める必要がある。
効率性	事業執行にあたって効率性を高める余地はないか(経費、人員、作業時間等の縮減など)	<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり	事業の実施時期や関係団体との連携など、効率的な事業の執行を検討する必要がある。
評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針【Action】		体育施設利用の拡大のための方策や、スポーツをしていない子供に興味を持ってもらうような取組の検討。	

令和元年度教育委員会点検・評価表(平成30年度事業実施状況)

大項目	(1)生涯学習の充実
中項目	④ 生涯スポーツの振興

		担当係等	体育振興係			
事業名	社会体育施設の維持・管理					
事業の目標と見込まれる成果【Plan】	町民に良好なスポーツ活動の場を提供する。					
実施内容【Do】	<ul style="list-style-type: none"> ・町体育施設の維持管理 ・各体育施設・設備の故障個所の修繕 ・老朽化した体育施設の解体 					
事業費(財源内訳) ※ 単位:千円	事業費	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
	127,330				2,612	124,718
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・総合体育館トイレ改修工事 621千円 ・総合体育館公衆無線LAN環境整備工事 2,331千円 ・総合体育館修繕(非常用発電機バッテリーほか) 1,782千円 ・温水プール天井板改修工事 18,910千円 ・温水プール天井板改修工事設計管理委託料 1,696千円 ・温水プール修繕(LED照明、空調、循環浄化装置ほか) 2,594千円 ・武道館工事(床塗装改修、柔道用畳固定) 1,664千円 ・旧町体育館解体工事 39,338千円 ・新町体育館給水管切替工事等 2,626千円 					
事業の評価【Check】						
区分		評価及び説明・考察				
有効性 (達成度)	目標に対し、期待した成果は得られたか	評価	体育施設を活用してもらうため、故障個所の修繕を行い、老朽化している施設については、施設の解体を行った。			
		A				
必要性	事業のニーズに変化はあるか(事業実施後のニーズの変化は)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少	各施設の老朽化が進んでおり、計画的に対応して行くことが必要である。			
		<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり				
効率性	事業執行にあたって効率性を高める余地はないか(経費、人員、作業時間等の縮減など)	管理体制の見直しや、施設の長寿命化を図る必要がある。				
評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針【Action】		総合体育館が築27年、温水プールが築22年、石川町武道館が築34年など各施設の老朽化が進んでいる。計画的な施設の改修が必要となっている。また、利用者の利便性、点在する施設が多くある中、維持管理の体制整備を検討し、効率的維持管理ができるようにしていく必要がある。				

令和元年度教育委員会点検・評価表(平成30年度事業実施状況)

大項目	(4)文化の振興と文化遺産・鉱物の保存・活用
中項目	③ 鉱物の展示と活用

担当係等	歴史民俗資料館
------	---------

事業名	歴史民俗資料館運営事業
-----	-------------

事業の目標と見込まれる成果【Plan】	日本三大鉱物産地に数えられる石川町に関わる鉱物標本を常設展示し、町民の理解を深めるとともに、歴史民俗資料の展示により、先人の生活と町の歴史を概観できる環境を整える。 また、それらを達成するために、鉱物や歴史民俗資料の収集や調査研究を進める。
---------------------	---

実施内容【Do】	(1)展示事業… 常設展示(岩石鉱物、歴史民俗資料等)、企画展示 (2)歴史民俗資料・鉱物資料等の整理保管 (3)鉱物・鉱山関連調査整備事業 (4)教育普及事業 (5)石川町史活用事業
----------	--

事業費(財源内訳) ※ 単位:千円	事業費	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
	7,367				409	6,958

達成状況	(1)展示事業 ①入館者数… 2,335人(町内586人、県内975人、県外774人) ②企画展… 「世界の水晶展2」 期間 8/7~11/4日 入場者数 1,020人 (2)歴史民俗資料・鉱物資料整理保管 ①文献資料… 町関係3,799点、個人寄託1,856点、所蔵1,087、合計6,742点 ②鉱物岩石標本… 1,844点(県指定天然記念物含む) (3)鉱物・鉱山関連調査整備事業 ①鉱物保護収集委員会… 鉱物・岩石の収集、旧鉱山跡の調査等を実施 ②和久観音山鉱山の公開… 石川鉱石採掘保存会に委託(案内者305人) (4)教育普及事業 ①講演会… 演題「水晶の魅力」、講師:東北大学准教授 長瀬敏郎先生 日時:H30.10.13日、場所:石川小クリスタルホール、参加者:50名 ②教育支援… 受入者402人(小学生289人、中学生3人、高校生19人、大学等91人) (5)石川町史の活用 まち歴寺子屋 全6回 35人、古文書寺子屋全10回 17名
------	--

事業の評価【Check】

区分	評価及び説明・考察
----	-----------

有効性 (達成度)	目標に対し、期待した成果は得られたか	評価	展示事業等については、施設的な制限がある中、概ね目標は達成しているが、その他事業については、一部改善の余地はあると考えている。
		B	

必要性	事業のニーズに変化はあるか(事業実施後のニーズの変化は)	■ 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	石川町歴史文化基本構想に基づく事業であるので、本構想の目的「町の文化財の継承とまちづくりへの活用」達成を目指している。

効率性	事業執行にあたって効率性を高める余地はないか(経費、人員、作業時間等の縮減など)	■ 余地なし	<input type="checkbox"/> 余地あり	歴史民俗資料館の実施事業から見ると、人員・経費等については、削減できる余地はない。

評価を踏まえた事業の課題及び今後の対応方針【Action】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉱物館を含む計画的な施設整備が必要な時期となっている。 ・ 町内文化財の掘り起こしや将来への町文化財の継承等のため、町民理解と人材育成が必要である。
-------------------------------	---

IV 石川町教育委員会評価委員会の意見

1 教育委員会活動

- ・定例会、臨時会を開催し速やかな議案審議をしているほか、その活動状況を町ホームページに掲載し、住民理解の向上に努めていることは評価できるが、手法等を工夫し、さらなる住民理解の向上を図ってほしい。
- ・できる限り教育現場に足を運び、教育関係者と意見交換する機会を増やしてほしい。
- ・現代は、問題が発生した場合には即時対応を求められる時代である。保護者からの各種情報の収集は、教育懇談会以外になにかあるのだろうか。

2 通学援助事業

- ・運行体制やコースなどの見直しを行いながら、効率的な運行に努めてほしい。
- ・事業費の問題はあるが、できる限り利用者のニーズに沿った運行をしてほしい。

3 学校施設・学習環境整備事業

- ・限られた予算の中、計画的な整備を進めていることは評価できる。
- ・安全を最優先に事業を進めるとともに、計画的整備で施設の長寿命化を図ってほしい。
- ・災害等に備え、防災拠点としての学校施設整備も検討してほしい。

4 石川中学校調理場建設事業

- ・工期に若干の遅れが出たようだが、概ね目標は達成できたのではないか。
- ・給食調理場の衛生基準の高さには驚いた。ぜひ一度、この調理場を見学させてほしい。

5 学力向上推進事業

- ・学校現場が多忙な中、教師の指導力向上に向けた努力には敬意を表したい。
- ・時代の変化に対応した研修等を進め、指導力の向上を図ってほしい。

6 幼保小中間交流学習事業、いしかわふるさと教育事業

- ・幼少期から各教育機関等が連携し、常に児童生徒、保護者が相談できる体制を整えておくことが大切ではないか。
- ・どのような支援体制があり、どのような機関がどのような連携をしているのかなどについて、簡単に分かる資料があればいいのではないか。
- ・いしかわふるさと教育事業では、タブレットもいいが「いしかわ郷土かるた」をもっと活用してもいいのではないか。

7 学習環境の整備充実、ICT機器の活用

- ・ICT機器を活用した授業等は専門性が高いと考えられる。専門知識を持ったボランティアや外部講師の活用を検討してほしい。
- ・限られた人材や予算の中での情報化教育推進の取り組みは、大いに評価できる。

8 英語教育の推進

- ・令和2年度からの小学校英語必修化に向けて、英語指導助手だけではなく、専門的知識を持った外部講師の活用も必要ではないか。

9 学校給食費補助事業

- ・他自治体でも実施しているところがあるように、今後、学校給食費無償化の検討も必要になるのではないか。
- ・保護者にはとても助かる事業だと思う。予算に限りはあると思うが、現在の取り組みの継続を望みたい。

10 図書室管理運営事業

- ・年々書店数が減少する中、気軽に立ち寄り、様々な情報を得られる町の図書室の存在は大きい。本に親しみを持つ学生が増えることを望む。
- ・定期的に読み聞かせが開催されており、今後も子どもの豊かな心を育む事業に取り組んでほしい。
- ・図書室活動の広報に町内新聞等も使い、高齢者や一般町民にも伝わりやすい情報提供を行ってほしい。

11 放課後児童対策事業（放課後子ども教室）

- ・参加児童に様々な体験を提供していることは、評価できる。
今後も活動指導員の確保に努めてほしい。
- ・普段の学校生活とは違う豊かな体験ができるのは、幸せなことだと思う。
中学生、高校生、大学生など、少し年上の方々との交流機会を持てれば、また違った面で、児童が吸収できることが増えるのではないか。
- ・自治協議会活動委員会などに、活動指導員の要請をしてみてもどうか。

12 生涯学習、社会教育、公民館事業

- ・以前の活発だった青年教室の活動状況を参考に、青年を対象とした取組みを強化し、青年活動の活性化を図っていただきたい。
- ・主催講座の開催だけでなく、自主運営に向けたリーダー育成も図ってほしい。
- ・仕事、興味の対象等により、主催講座に毎回参加できる方ばかりとは限らないので、講座開催の都度、全町民に募集をかけるのも有効ではないか。

13 埋蔵文化財出前体験学習事業

- ・子どもたちが、教科書からだけでは学べない生きた授業を受けることができ、評価できる。
- ・中学校からの要請がなかったとのことなので、引き続き周知を図り、小中学生が文化財に興味を持てるような取組みを進めてほしい。
- ・来町者が、気軽に和久観音山鉱山跡などを見学できる仕組みがあればと思う。

14 スポーツ振興事業

- ・他市町村の取組みも参考にしながら、さくらロードレース大会のほかにも、親子で参加できるスポーツ企画ができないか。
- ・高齢化が進んでいるので、それぞれのペースで楽しめるウォークラリーやスタンプラリーのような企画があってもいいと思う。
- ・各地区でグラウンドゴルフ大会などを開催し、その後町全体で代表大会を行うなどし、町民が1回は参加できる仕組みを作れば、健康増進にもつながるのではないか。

15 社会体育施設の維持・管理

- ・他市町村からの利用者も多いので、総合体育館のトイレ改修工事を進めてほしい。
- ・総合体育館、温水プール等の体育施設は老朽化してきているので、計画的な改修を進め長寿命化を図ってほしい。
- ・総合体育館は避難施設にもなっていると思うので、毛布などの備蓄も進めてほしい。

16 歴史民俗資料館運営事業

- ・保育所などで、子どもたちが石川町の歴史に興味を持てるような取組みを進めてほしい。紙芝居などを使うのも一つの方法ではないか。
- ・石川町の歴史、鉱物などを誇りに思い、身近に感じられるよう、町内外への積極的なアピールも必要なのではないか。

VIII 資料

石川町教育委員会評価委員会設置要綱

(設置及び目的)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第2項の規定に基づき、同条第1項の点検及び評価を行うに当たって教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、石川町教育委員会評価委員会（以下「評価委員会」という。）を置く。
(所掌事務)

第2条 委員は、石川町教育委員会（以下「教育委員会」という。）の求めに応じ点検及び評価を行うに当たり、意見を述べるものとする。

(組織)

第3条 評価委員会は、評価委員7人以内で組織する。

2 評価委員は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育委員会が委嘱する。

3 評価委員の任期は、教育委員会が委嘱した日から2年とする。ただし、補欠の評価委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 評価委員は、再任することができる。

(委員長)

第4条 評価委員会に評価委員長を置き、評価委員の互選によってこれを定める。

2 評価委員長は、会務を総理する。

3 評価委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する評価委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 評価委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、教育課総務係において行う。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成21年3月1日から施行する。

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

(関係法令)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）【抜粋】

(事務の委任等)

第 25 条 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。

2 前項の規定に関わらず、次の事務を教育長に委任することができない。

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。
- (2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
- (3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
- (4) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- (5) 次条の規定による点検及び評価に関すること。
- (6) 第二十七条及び第二十九条に規定する意見の申出に関すること。

3 教育長は、教育委員会規則で定めることにより、第一項の規定により委任された事務又は臨時に代理した事務の管理及び執行の状況を教育委員会に報告しなければならない。

4 教育長は、第一項の規定により委任された事務その他その権限に属する事務の一部を事務局の職員若しくは教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員（以下この項及び次条第一項において「事務局職員等」という。）に委任し、又は事務局職員等をして臨時に代理させることができる。

(教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項に規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

石川町教育委員会の点検・評価（平成30年度施策・事業）について
「御意見をお寄せください」

お寄せいただいた御意見につきましては、今後の施策・事業等の推進にあたっての参考にさせていただきます。

なお、定められた書式はありません。

(参考書式)

点検評価項目（ ） について

※ 御住所

※ お名前

※御住所、お名前があれば、教育委員会の考えをお伝えできる場合もございます。

ご意見は、いずれかの方法でお寄せください。

(FAX) 0247-26-1638

(郵便) 〒963-7893 石川町字長久保185番地の4 石川町教育委員会 宛

(E-mail) kyouiku@town.ishikawa.fukushima.jp

